

# 地域活性化という「遊び」

57

## 京都市 福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

「や っぱ稲刈り楽しいよな」  
米つくりは5年ぶりでしたが

今回は山本家の歴史上

過去最高の出来。

ただ今年は夏にほとんど雨が降らなかつたせい

秋になってよく雨が降り

山間ということも重なって

圃場がうまく乾かず

足元がぬかるんで

たいへんな稲刈りでした。

まあしかし

この谷間で10年という時をすごした我が家の子供たち。

足元が悪いくらいで

へこたれるはずもなく

文句どころかそれを楽しめるくらい成長をとげました。

今回のために

となりのおじいちゃんに借りたバイ

ンダーは

湿田に強い一輪仕様。

たまたまというかさすがは先輩  
やはりこの谷のことよくわかってい

らっしゃいます。

二輪だとタイヤが条間を走るので

湿田では

タイヤが沈み込んでしまいます。

一輪の場合刈り取った株の上を

うまく走らせれば

根が張っている株の周りは

かなり水っぽくても地面は沈まず

なんとか刈り取りできるのです。

とはいえないざやってみると

思っていた以上に足元は悪く

バインダーをまっすぐ走らせるのす

りたいへん。

ちよつと油断すると

左右のバランスが崩れ

あつというまに横倒し  
無事刈り取った部分も

一度あるくと

ぐちゃぐちゃぬかるんでしまうため

バインダーの横に一人がついて歩き

稲がボン！と排出されるとき

空中でうまくキャッチできないと

せつかく束ねられた稲穂が

泥まみれになってしまいます。

さらに

キャッチする人が抱えられる稲束の

量も限られているので

交代がうまくいかない

かかえた東ごと転倒。

すべてが泥まみれという最悪の事態

が待っています。

稲刈りの日が

運悪く翌日からまたも雨という予報  
がでていて

あわてていたのか

途中ぬかるみに足を取られて

尻餅つく人続出。

蒸し暑い田植えのときならまだしも

山間ですこし寒いくらいの季節にな

つての泥まみれはとて冷たく

メンタル的にも

なかなか厳しい状況。

しかしこのよう

な「ちよつとたいへんな状況を

「おもしろい！」と捉えるのは

山本家のお家芸といえますか

泥田と格闘しているうちに

いつのまにか

テレビ番組のバラエティーで

ゲームなんかに参加しているような

気分になって

谷間の悲鳴が笑い声に変わった頃に

は能率も格段に上昇。

物理的に全く同じ作業をしているの

## ぬかるみでの稲刈り 厳しい状況だからおもしろい



本格的な稲刈りは初めての元気はちょっとお疲れ気味でした。



やっぱ楽しいなーと一番元気のよかった三男。



我が家の長老は堂々と昼寝です。羨ましい限り。



ぬかるみでは大苦戦。

ですが  
気分が変わると  
不思議なものです。ね。  
そんな子供たちの姿を見て  
まだ小さな子供を育てるご家族から  
いったいどうやってそんなふう  
に育てるの？  
などとよく聞かれますが  
今のところはわからないとしかお答  
えできません。  
しかし  
なんとなくそうかな？というよう  
なことを書いておきますと  
うちの子たちがまだ補助輪付きの自  
転車に乗っていた頃  
他の子たちもよくやるように  
どしゃぶりの雨のなか  
わざわざ走りに行ったり  
なんの必要もないのに  
泥んこになって

とんでもなく大きな穴を掘ったり  
そこにたまった泥水を布でひたすら  
ろ過したり  
大人からすると  
なんの得にもならないただ疲れるだ  
けのような作業のなかに  
何かしらの魅力を見つけ夢中でやり  
つづける姿をみたとき  
なぜ？という疑問と同時に  
とても素敵だと思いました。  
一見辛いことのようにみえる  
泥んこやずぶ濡れのなかにも  
面白いことや面白いものをみつけよ  
うと思えばみつけられる。  
要はそのとき  
自分たちがどこに意識を向けるかで  
世界の見え方は全く変わってしまう  
ということ  
僕が子供たちから教えてもらった感  
じです。

今 日大阪からカフェにいられた  
ご家族のお母さんが

ただ広いだけで遊具も何もないうち  
の農場の原っぱで

自分の子供たちが

何時間も退屈せず生き生きと

走り回って遊ぶ姿をみながら

「何もないのってほんと贅沢ですね」

とおっしゃり

ああこの方も

何もない贅沢ということ

ご自身のお子さんから気づかせても

らったのだらうなど

しみじみ思いました。

都会から訪ねてこられた方の

こういう一言は

大人への節目をむかえ

地域活性化の重要性を

意識しはじめた長男や次男にとって

非常によい

ヒントになると思います。

今度は彼らが

別の方向へ学ぶ心を開き

三和へ訪ねてこられるお客さんや子

供たちから教えてもらう番です。

いろいろ技術も身につけつつも

ちょっと生意気な彼ら。

果たしてそういうことに気がつくで

しょうか？

ちよっと心配ですがこの先非常に楽

しみになってきました。

僕の子育てはまだまだ続きます。